

令和 6 年度第 3 回おうめ観光戦略推進懇談会会議録（概要）

1 日時

令和 7 年 3 月 2 4 日（月）午後 2 時

2 会場

青梅市役所 3 階教育委員会会議室

3 出席委員

千葉 千枝子 委員（会長）、竹内 俊夫 委員（副会長）、
本橋 大輔 委員、林 英夫 委員、小澤 順一郎 委員、
嶋田 俊平 委員、千保木 三紀子 委員、榎戸 敏文 委員

4 欠席委員

なし

5 傍聴者

1 名

6 議題

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 観光に関するアンケートの実施結果について

イ 令和 7 年度以降の事業計画（案）について

ウ その他

(3) 次回の懇談会日程について

(4) その他

7 配布資料

資料 1 - 1 観光客を対象としたアンケート調査結果について

資料 1 - 2 観光客を対象としたアンケート調査結果

資料 1 - 3 市民を対象としたアンケート調査結果について

資料 1 - 4 市民を対象としたアンケート調査結果

資料 2 令和 7 年度以降の事業計画案について

8 会議録（概要）

発言者	発言内容
1 あいさつ (省略)	
2 議題（1）観光に関するアンケートの実施結果について (資料1-1、1-2、1-3、1-4)	
会長	<p>それでは、これより議事の進行を務めさせていただきます。皆様には円滑な議事の進行に、御協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、次第の「2 議題（1）観光に関するアンケートの実施結果について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><資料1-1から資料1-4について説明> [概要は以下のとおり]</p> <p><u><観光客・市民を対象としたアンケート調査結果></u></p> <p>●調査目的 首都圏在住者に対し、青梅市に対する観光に関する調査を行うことで、観光客の状況、旅行消費額、来訪者満足度、リピート率等の収集・分析を行い青梅市の観光施策の効果的な推進を図るモニタリング資料を得ること。</p> <p>●調査事項： 性別、年代別における「青梅市への観光来訪の時期」を調査。</p> <p>●調査方法： アンケート調査の委託業者が保有するモニターにより、対象者を抽出し、アンケート調査した。</p> <p>●調査対象者および有効回答数 直近1年以内に青梅市に来訪経験がある首都圏居住者の500人。</p> <p>●調査期間 2025年2月19日～2月21日</p> <p>●おうめ観光戦略における数値目標の達成状況</p>

	<p>一人当たり観光消費額 11,279 円 → 未達 観光客満足度 40.8% → 未達 持続可能な観光に対する認知度 26.6% → 未達</p> <p><市民を対象としたアンケート調査結果></p> <p>●調査目的 市内在住者に対し、青梅市の観光に関する調査を行うことで、市民満足度等の分析を行い、青梅市の観光施策の効果的な推進を図るモニタリング資料を得ること。</p> <p>●調査事項 性別、年代別における「青梅市に住んでいる満足度」を調査した。</p> <p>●調査方法 2月1日号広報おうめにて周知を行い、市民を対象に Web 上の フォームによる調査を実施。</p> <p>●回答数 48名（うち1名は自由意見以外の回答が無効）</p> <p>●調査期間 2025年2月1日～2月21日</p> <p>●おうめ観光戦略における数値目標の達成状況 市民の観光おすすめ度 40.4% → 未達 市民の住んでいる満足度 44.7% → 未達</p>
会長	<p>いずれも未達成ということなので残念だが、懇談会が始まってまだ1年なので今後も活動を継続していくことで数値は上昇していくものと思われる。</p>
委員	<p>おうめ観光戦略について、令和6年度の目標の確認をしたい。</p>
事務局	<p>令和10年度までの目標を定めており、単年度での目標は定めていません。</p>
委員	<p>青梅市に住んでいる満足度について、10点満点中7点以上の回答割合は60%以上となるが基準を8点以上と定めているのはなぜか。</p>

事務局	前回の青梅観光戦略で目標に関する議論の中で検討した結果、一つの指標として8点以上の方を対象にすると決めたもので。8点以上であれば満足したと言えるのではないかと考えて設定しました。
会長	令和10年度の目標達成を見据えているので、令和6年度では未達成だったがあと3年で達成できるのではないかと考えるため今後の事業計画が大事になってくる。
2 議題(2) 令和7年度以降の事業計画(案)について	
会長	続きまして、次第の「(2) 令和7年度以降の事業計画(案)について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p><資料2について説明></p> <p>[概要は以下のとおり]</p> <p>●基本戦略1 持続可能な観光地づくりの推進</p> <p>施策1：観光客に対するWEBアンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題(1)で説明したアンケート調査の実施だが、おうめ観光戦略の数値目標未達のため継続して実施する。 <p>施策3：観光施設の整備と維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御岳交流センターのLEDになっていない箇所について、LED化する工事。令和7年度中に工事完了予定。 ・青梅丘陵ハイキングコース上の第3休憩所から第4休憩所にかけての路面で、凸凹になっている箇所が多くあり、通行上問題のあることから、路面修繕を行なう予定。 ・令和8年度以降は、長淵山ハイキングコースや霞丘陵ハイキングコースなどにおいても、同様の路面修繕を行いたいと考えている。 ・霞丘陵ハイキングコースの道標修繕について、ハイキングコース内の道標3基の更新を行う予定。 ・令和8年度以降は、他のハイキングコースにおいて

も同様に道標の更新を行いたいと考えている。

●基本戦略2 インバウンド対応の推進

施策1: インバウンドの動向把握

- ・令和7年度に御嶽駅でのオープンローミング設備の設置を予定。オープンローミングとは、世界中のWiFiサービスをシームレスに接続する国際的な無線LAN設備のことで、整備することにより、海外の観光客がよりWiFiサービスを利用しやすい環境を整えることができる

施策2: インバウンド向け受け入れ環境整備

- ・外国語表記の観光ガイドを作成する。すでに外国語表記の観光ガイドは配布しているところだが、情報が古い箇所が多々あるため、それらを改訂し、新たな観光ガイドを発行したいと考えている。
- ・令和8年度以降は、案内板における外国語表記も更新できればと考えている。

●基本戦略3 市民、事業者と一体となったプロモーションの展開

施策1: OmeBlueによる地域プロモーションの推進

- ・令和7年度に青梅ブルーをあしらったノベルティなどを作成し、各種イベントで配布する予定。

施策2: レスポンシブルツーリズムの推進

- ・令和7年度から5か年計画で、あきる野市と一般社団法人リーブノートレイスジャパンとの共同事業として、「TOKYO サステナブルツーリズムプラットフォーム構築事業」を開始する。これは、閑散期における観光需要の創出や、多摩川などの豊かな自然環境について、リーブノートレイスという考え方を導入するような研修や講座を行うことで、レスポンシブルツーリズムの推進を図る事業との位置づけ。

施策4: 多様な媒体での情報発信

	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムなどにWEB広告を発信し、ポスターやチラシを見ない方々に対しても広く周知することを目的に取り組んでいく。 <p>●基本戦略4 観光資源の高付加価値化による収益力の向上</p> <p>施策1：観光資源を掛け合わせたコンテンツ開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妖怪イベントの実施として、今年の下半期のNHK連続テレビ小説「ばけばけ」を機に、市内に伝わる雪おんな伝説のほか、妖怪にスポットを当てたスタンプラリーや講演会を実施する予定。
会長	何か質問やご意見等ある方はいらっしゃいますか。
委員	基本戦略4の施策2：新たな観光資源の発掘について、昨年11月15日号の広報おうめに載っていたが、永山ハイキングコースで上原先生の授業があったとの情報があった。担当課が異なるかもしれないが授業内容など分かれば教えてほしい。
事務局	10年前くらいから行っていたもので、当時は森林療法としてセラピーロードの講座がありました。セラピーロードと認められる要件がいくつかあるので、他自治体の活動なども踏まえながら今後青梅にも取り入れられるか検討していきたいと考えます。
副会長	来年度の青梅丘陵HCの整備範囲は第3休憩所から第4休憩所の範囲とのことだが、路面整備を考えている範囲は具体的にどこを考えているか。
事務局	青梅市としては管理しているのは永山公園から矢倉台からちょっと西のところまでですが、永山公園からむらさめ橋は公園緑地課の所管です。そこから矢倉台のちょっと西までがシティプロモーション課の所管なので、ここで考えている整備範囲はシティプロモーション課が所管している範囲と考えております。
副会長	矢倉台手前から宮ノ平駅へ向かうコースは東京都の所管？

	であるか。
事務局	宮ノ平駅への道は東京都と話し合い中。東京都は青梅市ではないかとの見解でしたが、現在は認識が合っておらず、今の時点では誰の所管か言える状況ではございません。
副会長	ハイキングコースに来てくださいといっても道が荒れていては呼ぶことができない。宮ノ平へ続く道も含めて、東京都が所管だとしても整備が抜け落ちないように検討していく必要があると考える。
委員	色々ある施策の中で目玉については積極的に施行していくことが大事と考える。T O K Y O サステナブルツーリズム事業の予算も 500 万円ありこれが目玉のひとつなのかと感ずるが、具体的にどんな施策を考えているのか教えてもらいたい。T O K Y O のサステナブルツーリズムと言えは青梅といった位置づけとを考えているという理解でよいか？ また企業向けのモニターツアーは B to B と考えるが、対象企業は青梅の企業が対象なのか？
事務局	<p>本件の背景および具体的な内容は以下の通り。</p> <p>【背景】</p> <p>リーブノートレイスジャパンは令和 3 年度に発足した米国で発祥したアウトドアの行動基準を日本で普及する団体。青梅市は令和 5 年に JSTS-D に参画し、令和 6 年にリーブノートレイスジャパンと連携協定を締結している。またあきる野市もリーブノートレイスジャパンも連携協定を締結している。なのでこの 3 社にて TOKYO サステナブルツーリズム協議会を発足し、東京都の補助を受けながら新しい事業をすすめていく予定。</p> <p>【目標】</p> <p>環境配慮型のプログラムを開発することで自走可能な仕組みを作ることで持続可能な観光を推進していく。</p> <p>【事業の柱】</p> <p>1 観光の閑散期に企業研修、お子様やインバウンド向け</p>

	<p>の受け入れを推進して通年での観光へとつなげていく内容。</p> <p>2 連携協定の締結を踏まえてリーブノートレイスの取り組み推進</p> <p>3 自走可能なプラットフォームを構築して事業者を育成する研修制度を構築していくことを考えており、対象とする企業は都心部の企業を考えている。</p>
委員	企業の研修制度は観光の閑散期に行うという理解で良いか？
事務局	ご理解のとおりです。一般客が少ない閑散期に企業研修などを行い、青梅へ訪問される人の平準化を図っていきたいと考えております。
委員	SDGS に力を入れている企業を参集することで青梅市がサステナブルな観光地であるというブランディングをしていくことに繋がると思うが、協議会は青梅市、あきる野市、リーブノートレイスの3者だが、今後はもっと広げていく予定はあるのか？
事務局	リーブノートレイスジャパンは西多摩地域でと考えており、現在声かけをしています。今後広がるかどうかは分かりませんが、現時点で奥多摩町や檜原村が興味をもっているのを聞いていますので、今後はもっと広がっていくのではないかと考えております。
委員	リーブノートレイスが様々な自治体をいれていくとすると青梅市が主導権をとれない状況になる可能性がある。青梅市がサステナブルツーリズムを主導していけるとしたらどんな活動が考えられるか。例えば OmeBlue をサステナブルツーリズムの象徴にしていくともあるが、関係性があれば教えてほしい。
事務局	OmeBlue とサステナブルツーリズムに直接的な関係性は現時点で至っておりません。青梅市が協議会で指導力を発揮していけるかどうかは青梅市の力量にかかってくる

	<p>ですが、まずは協議会の事務局としての役割を担っているので、まずは青梅市がフィールドの中心になっていくものと考えております。</p> <p>また OmeBlue を使ってサステナブルなもので活用してはどうかと以前の懇談会でご提案がございましたが、協議会にはあきる野市もいるので直接絡めていくのは難しいと考えます。ただ、OmeBlue の推進は進めており、基本戦略 4、施策 4 の「地場産品を活用した土産品や商品開発」の中で OmeBlue Sweets&Drink と称して東京都の支援も受けながら OmeBlue 周知に向けた取り組みも始めております。</p>
委員	<p>霞丘陵の道標修繕について、日本人が来ても道が分かりづらいと感じる部分があるので多言語表記も検討すると良いと考える。</p>
事務局	<p>道が分かりづらい点について道標の制作を進めます。また多言語化についても工夫して進めていきます。</p>
委員	<p>サステナブルツーリズムは目玉となる施策であると考えます。令和 7 年度は調査等をメインに考えているようだが、世間の動向を鑑みると実施できるものはスピード感をもって進めていくことが大事と考える。</p>
事務局	<p>協議会としては青梅市だけで主導できるものではないが、青梅市だけでできる範囲で進められる部分は取り組んでいきたいと考えております。</p>
委員	<p>玉堂美術館という立場で呼んでもらっているが力の弱さを感じている。御岳小橋が流れてしまって陸の孤島状態。団体客や遊歩道散策者も来なくなっており、興味のある方しか来てもらえない。様々な方に興味を持ってもらえるような活動を進めていきたい。</p> <p>一方でアンケート結果を見てみたときに青梅市は東京の都心部の人たちの自然に接することができる場として位置づけられており、全国から青梅に来ることは少ない状況。市の財産は自然と言っても全国にそんな場所はたくさんある。</p>

	<p>なので東京の都心部の人たちをいかにして青梅市に来てもらうかにフォーカスすることが大事ではないか。色々な施策をして全体的に少しずつ良くしていこうという試みを感じられるが、優先順位をつけて一つのことに集中したほうが効果的になるのではないかと感じた。今回の令和7年度以降の事業計画案に反対するものではないが、目的をはっきり決めて施策の目玉を作ることが今の世の中の動向にあっているのではないかと感じる。</p>
委員	<p>岩波建設の岩波さんが OmeBlue という曲を作成し、とても良い曲なので有名なアーティストに歌ってもらって青梅市のプロモーション活動に役立ててほしい。青梅の観光から未来が歌にこめられている。青梅市は広いのでアンケート結果からターゲットを絞るのは難しいと思うので、青梅は色々あっておもしろいというアピールも大事と思う。また、吉川英治記念館を VR に記録しようという提案をしている。他の場所も VR 等で見れるようなコンテンツを作成して青梅の良さをアピールできたら良いなと感じている。</p>
2 議題（3）その他	
委員	特になし
3 次回の懇談会日程について	
事務局	<p>次回の懇談会は7月～8月の夏に開催予定です。事務局から日程調整等については後日連絡します。</p>
4 その他	
委員	<p>沿線まるごとホテル事業について、トピックを共有。 3月中旬にニュースウィークにてSDGsアワードにて最優秀賞を受賞した。施設としてはまだ奥多摩にしかないが、青梅市にも普及させていきたい。サステナブルツーリズムにて観光事業者に向けた取り組みの期待を示すガイドライン的なものができればそれに従った事業を前向きに進めていきたいと思っている。</p>